

# 中高一貫だより

<編集・発行>  
えりも地区連携型  
中高一貫教育  
推進委員会事務局

## キャリア発達と地方創生を促すふるさと学習

えりも地区連携型中高一貫教育推進委員長

(北海道えりも高等学校校長)  
佐藤 健



平成16年度より開始したえりも町の中高一貫教育は16年目になります。えりも町の教育は「えりも学」というべきふるさと学習を行っています。具体的には中高一貫教育で百人浜植樹等によるえりも緑化の学習、えり小とえり高では駒踊り・岬小では襟裳神楽の学習による郷土芸能の継承等を行っています。また、高校では今年も地元の特産物の食育授業を行い、今年度からさらに地域の方々のご協力を頂き「地域探究型学習」がスタートします。

子どもたちにとって地域のことを勉強することは、将来の自身の社会への関わり方を考える良い機会となります。それにより自分が社会に何ができるか、どう関わるか、何が幸福であるのか、その結果自分の人生がどうあるべきか、何を勉強すべきか、どういう将来・進路を選択するか、ということが次第に見えてきます。

また、ふるさと学習は当然地元に関心を持ち、その将来を支える人間を沢山輩出するために大切という意味があります。先日の新聞で政府の地方創生有識者会議(5/23)の話が載っていました。そこでは人口減少による地域課題の解決のため、高校を舞台に次代を担う人材の育成が提言されています。地方衰退の主因とみる都市部の一局集中の是正を訴え、都市部に住みながら地方と交流を深める「関係人口」の拡大を促すとしています。元々少子化の中、殆どの自治体は人口減少・流失を止められないかもしれない。その現象だけを想像すれば悲観的になってしまいがちですが、それでもふるさと学習をすることの意義として、生徒のキャリア発達はもとより、「関係人口」を増やすという観点が重要と考えます。

えりも町には中高一貫教育をはじめ、高校生の進路体験を小中学生に伝える機会など、小中高一貫でキャリア教育を進めることが可能な基盤があります。今後、その基盤をさらに活用して連携を図り、地域の課題の共有、社会に向けて大きな志を持つ生徒の輩出を図っていきたくと考えています。

## 学力向上に向けた取り組み

えりも中学校とえりも高校間で行われている中高一貫教育推進事業では、「えりもの子」達の学力向上を軸として、学校間の授業交流を柱とする種々の取組を行っており、今年度で十六年目を迎えました。5月に中学と高校の先生方がえりも中学校に集い、今年度の学力向上に向けた取り組みについて話し合いました。「えりも高校がえりもの教育の最終形」を肝に銘じ、今年度も中高の連携を教育に活かしていきます。紙面の都合で一部とはなりますが、教科に関してそれぞれの取組の概要を紹介いたします。

【国語部会】今年度も漢字力の向上、家庭学習の定着、語彙力の向上を目標に中高六年間の系統的な漢字学習を行っています。六年間を通して一つのテキストを繰り返し学習することで、確実な定着を図ります。また高校教員による乗り入れ授業を実施し、中学生の高校入試対策を行う予定です。(高野)

【社会科・地歴公民科部会】今年度も年3回のコンクールを実施し、基礎学力及び学習意欲の向上を図ります。また、中1～高1までの環境教育「百人浜に学ぶ」を通し、環境問題に関する意識向上を目指します。(倉内)

【数学部会】今年度は高校教員が週3回中学2年生の授業に入ります。生徒の状況に合わせ、TT形式や少人数授業等柔軟に対応してまいります。また、2月には高校教員も含め、習熟度別多展開での学力向上推進授業を行います。中高一貫の強みを生かし、進学後スムーズに対応できる力を養います。(前川)

【理科部会】理科部会では基礎学力の定着を図るために各種テストの活用を図ります。またえりもの歴史的背景を後世に伝える「百人浜に学ぶ」を通して、自然環境の保護の大切さについて学びます。さらに、中高連携入試に向けた、中高教員によるティームティーチング授業も行います。(佐々木)

【英語部会】今年度は基礎学力の向上を目指すとともに、スピーキング能力の向上に力を入れます。スピーキングテストの補助や English Trial、英検二次対策などの補助に当たり、言語運用能力を高めていきます。(松本)

【保健体育部会】今年度も中高生の体力向上を狙いとして、中1から高3まで新体力テストを実施しています。その結果を分析し、課題に応じた体力向上の取り組みを行います。また、中高生でソフトボールやサッカーの合同体育授業を実施し、生徒同士の教え合い・学び合いの活動を行います。(林)

